

# Future Lepton Colliders for Energy Frontier Studies

Taikan Suehara (Kyushu Univ.)



### 前半: エネルギーフロンティア レプトンコライダーの物理

### 後半: エネルギーフロンティア レプトンコライダーの技術と将来計画

# エネルギーフロンティア レプトンコライダーの物理 (ハドロンコライダーとのシナジーを含む)

### 前提条件:

- Higgs factory (~250 GeV) @ 2030-2040s
- (Multi-)TeV e+e- collider @ >2050

プロジェクトの現状・構想等は後半で議論します









- TeVエネルギーフロンティアの3つの武器
  - 1. Higgs粒子
    - ほとんどのTeV物理はHiggsと密接な関係がある
    - a few% → < 1%の測定精度へ、桁が変われば世界が変わる</li>
  - 2. 新粒子(新物理)直接探索
    - 新粒子の生成、直接測定で背後の物理を直接理解
    - ・エネルギーの範囲内で、より広く、よりモデル非依存に探索したい
  - 3. Top/電弱精密測定
    - Top, W/Zを通して新物理を探索







DM



2-ノエルミオン 週	住
• 新たな力の発見	可能性
・ LEPの3桁上の紛	計量
・ 偏極が非常に重	要
断面積と <b>角分布</b> :	
$e^+e^- \rightarrow e^+e^ e^+e^$	→ µ*µ⁻
$e^+e^- \rightarrow T^+ T^-$	
$e^+e^- \rightarrow b b$ $e^+e^$	→ C C
$e^+e^- \rightarrow s s$ $e^+e^$	→qq
Tの崩壊分岐比	
τの偏極	
тの寿命	
クォークとレプトンの褚	复合粒子可能性
余剰次元探索	

量子色力学・核物理 ILCで確実にできる測定 背景事象の詳細な理解 新粒子発見に重要 •  $\alpha_{s}(q^{2})$ 測定  $e^+e^- \rightarrow b b. b b a. b b a a$  $e^+e^- \rightarrow c c, c c g, c c g g$  $e^+e^- \rightarrow q \; q, \; q \; q \; g, \; q \; q \; g \; g$ 破砕関数測定 b, c, s, q, gluon ハドロン内およびハドロン系での粒子相関 b.c.s.u.dバリオン、メソンの排他的生成及 び崩壊 エキゾッチクハドロン探索: テトラクォーク、ペンタクォークグルーボ ール、等 2光子衝突におけるジェット生成 2光子衝突におけるb.c.s.u.dバリオン、 メソンの排他的生成及び崩壊 2光子衝突におけるレプトン生成



- TeVエネルギーフロンティアの3つの武器
  - 1. Higgs粒子
    - ほとんどのTeV物理はHiggsと密接な関係がある
    - a few% → < 1%の測定精度へ、桁が変われば世界が変わる</li>
  - 2. 新粒子(新物理)直接探索
    - 新粒子の生成、直接測定で背後の物理を直接理解
    - ・エネルギーの範囲内で、より広く、よりモデル非依存に探索したい
  - 3. Top/電弱精密測定
    - Top, W/Zを通して新物理を探索

### 岐路に立つ素粒子物理学



# ヒッグスの結合定数で見ると



# ヒッグスと新物理



TeV新物理の有力候補 1. SUSY (Two Higgs doublet model) 2. New dynamics (Composite Higgs) 3. ずっとSM 4. それ以外 上ッグス結合のずれはない。 Top, ヒッグス自己結合測定

Higgsのexotic decay, invisible decay等、 直接新物理発見に繋がる可能性も。

Taikan Suehara, 高エネルギー将来計画委員会, 30 Apr. 2020 page 12

等を通し真空の構造研究へ



MSSM (tan = 5, M, = 700 GeV)



# ヒッグス自己結合



# ヒッグス自己結合@レプトンコライダー



s-channelは正の干渉,

t-channelは負の干渉

(LHCは負の干渉)

0

0.5

1.5

2.5

 $\lambda / \lambda_{SM}$ 

2

深層学習によるジェット 再構成性能の抜本的な 改善に取り組んでいる



- TeVエネルギーフロンティアの3つの武器
  - 1. Higgs粒子
    - ほとんどのTeV物理はHiggsと密接な関係がある
    - a few% → < 1%の測定精度へ、桁が変われば世界が変わる</li>
  - 2. 新粒子(新物理)直接探索
    - 新粒子の生成、直接測定で背後の物理を直接理解
    - ・エネルギーの範囲内で、より広く、よりモデル非依存に探索したい
  - 3. Top/電弱精密測定
    - Top, W/Zを通して新物理を探索

# 新物理直接探索

Q: sub-TeV e<sup>+</sup>e<sup>-</sup>コライダーの探索 領域はLHCで調べ尽くされた?

# A: e<sup>+</sup>e<sup>-</sup>でしか見えないところに motivateされた物理がある

1. Compressed SUSY

LSP(DM候補)とNLSPが縮退 → visibleな終状 softでハドロンではトリガーが困難

m(χ <sup>0</sup> <sub>1</sub> )	m(χ±)	m(χ <sup>0</sup> _2)	δm
166.59 GeV	167.36 GeV	167.63 GeV	0.77 GeV

### ISR photonを用いてO(1 GeV)の 信号をtagできる



### ATLASのW/Z/Hを介したEWkino探索

**b** 1000 **b**  $\tilde{\chi}_{1}^{+} \tilde{\chi}_{1}^{-} \gamma$  **d M770 b** 800 **c**  $\tilde{\chi}_{1}^{0} \tilde{\chi}_{2}^{0} \gamma$  **c** SM **d**  $M_{\tilde{\chi}_{1}}^{\text{ft}} = 168.6 \pm 1.0 \text{ GeV}$  **c** SM **d**  $M_{\tilde{\chi}_{1}}^{\text{ft}} = 168.6 \pm 1.0 \text{ GeV}$  **d** 400 **e** 200 **e** 200 **e** 250 **f** 300 **f** 350 **f** 400 **f** 450 **f** 500**f**  $\sqrt{s'/GeV}$ 



Hadron colliderでは困難な Pure Higgsinoの場合でもエネルギー さえ届けばILCでは十分見える Winoとの混合があれば混合パラメータ からさらに多くのモデル情報が得られる



# 新物理直接探索 (cont.)

### 3. 見つかった場合

- 新粒子の質量精密測定 (kinematic edgeを利用)
- Threshold scan (断面積の√s依存性 から新粒子のスピンを決定)
- 各偏極における結合の精密測定
- からモデルの詳細を明らかにし、High scaleの謎に迫る

$\sqrt{s} = 500 \text{GeV}$ only		ILC1	ILC2	nGMM1
	$m_{\widetilde{\chi}_1^0}$	102.7	148.1	151.4
Model mass [GeV]	$m_{\widetilde{\chi}_2^0}$	124.0	157.8	155.8
	$m_{\widetilde{\chi}_1^{\pm}}$	117.3	158.3	158.7
Precision	$\delta m_{\widetilde{\chi}_1^0}/m_{\widetilde{\chi}_1^0}$	0.5 %	0.7 %	1.0 %
$(\mathcal{P}_{-+}, \mathcal{L} = 500 \text{ fb}^{-1})$	$\delta m_{\widetilde{\chi}^0_2}/m_{\widetilde{\chi}^0_2}$	0.5 %	0.7 %	1.0 %
$\oplus (\mathscr{P}_{+-}, \mathscr{L} = 500 \text{ fb}^{-1})$	$\delta m_{\widetilde{\chi}_1^\pm}/m_{\widetilde{\chi}_1^\pm}$	0.5 %	0.7 %	1.0 %
Scaled precision	$\delta m_{\widetilde{\chi}_1^0}/m_{\widetilde{\chi}_1^0}$	0.3 %	0.4 %	0.5%
$(\mathcal{P}_{-+}, \mathcal{L} = 1600 \text{ fb}^{-1})$	$\delta m_{\widetilde{\chi}^0_2}/m_{\widetilde{\chi}^0_2}$	0.3 %	0.4 %	0.5%
$\oplus (\mathscr{P}_{+-}, \mathscr{L} = 1600 \text{ fb}^{-1})$	$\delta m_{\widetilde{\chi}_{1}^{\pm}}/m_{\widetilde{\chi}_{1}^{\pm}}$	0.3 %	0.4 %	0.5%

GMM: Generalized Mirage Mediation

arXiv:1912.06643

Kinematic edgeから chargino/neutralinoの質量を導出し、 SUSYパラメータを導出



[/900] M M d¦ [GeV] pMSSM-4 + M fit to nGMM1 pMSSM-10 fit to ILC2 ILC I20 scenario, full sim ILC I20 scenario 4000 q̃ from HL-LHC M<sub>3</sub> extrapolated 3000 3000 2000 2000 Μ, 1000 1000 M, 10<sup>11</sup> 10<sup>15</sup> 10<sup>14</sup> 10<sup>17</sup> 10<sup>19</sup> 10<sup>12</sup> 10<sup>18</sup> Q [GeV] Q [GeV]

ハドロンコライダーでのgluino測定と合わせ

SUSYによる大統一スケールの決定



- TeVエネルギーフロンティアの3つの武器
  - 1. Higgs粒子
    - ほとんどのTeV物理はHiggsと密接な関係がある
    - a few% → < 1%の測定精度へ、桁が変われば世界が変わる</li>
  - 2. 新粒子(新物理)直接探索
    - 新粒子の生成、直接測定で背後の物理を直接理解
    - ・エネルギーの範囲内で、より広く、よりモデル非依存に探索したい
  - 3. Top/電弱精密測定
    - Top, W/Zを通して新物理を探索

# Top/電弱精密測定の物理

### topの精密測定



Threshold scanによるtopの精密測定 MSbarに直接変換できる「理論的に 扱いやすい」質量を直接求められる



arXiv:1205.6497, Degrassi et al.



偏極を用いて左巻き、右巻きの結合 定数を求め、Topが関係する新物理の 探索・モデル識別が可能

 $\Delta m_t(\overline{MS}) \lesssim 50\,{
m MeV}$  $\Delta m_h \simeq 14\,{
m MeV}$ ILC で真空の位置を正確に決定

# Top/電弱精密測定の物理 (cont.)

### 2fの精密測定

# 7'



 $\mathcal{L}_{\rm eff} = \mathcal{L}_{\rm SM} + \Delta \mathcal{L}$ 

**Effective Field Theory** 

$$=\mathcal{L}_{\mathrm{SM}}+\sum_{i}rac{c_{i}}{\Lambda^{d_{i}-4}}O_{i}$$

 $+rac{g^2 c_{WW}}{m_W^2} \Phi^\dagger \Phi W^a_{\mu
u} W^{a\mu
u} + rac{4gg' c_{WB}}{m_W^2} \Phi^\dagger t^a \Phi W^a_{\mu
u} B^{\mu
u}$ 

 $+\frac{g^{\prime 2}c_{BB}}{m_{u\nu}^2}\Phi^{\dagger}\Phi B_{\mu\nu}B^{\mu\nu}+\frac{g^3c_{3W}}{m_{u\nu}^2}\epsilon_{abc}W^a_{\mu\nu}W^{b\nu}_{\phantom{b}\rho}W^{c\rho\mu}$ 

 $+i\frac{c_{HL}}{v^2}(\Phi^{\dagger}\overleftrightarrow{D}^{\mu}\Phi)(\overline{L}\gamma_{\mu}L)+4i\frac{c_{HL}'}{v^2}(\Phi^{\dagger}t^a\overleftrightarrow{D}^{\mu}\Phi)(\overline{L}\gamma_{\mu}t^aL)$ 

 $+i\frac{\ddot{c}_{HE}}{dr^2}(\Phi^{\dagger}\overleftrightarrow{D}^{\mu}\Phi)(\overline{e}\gamma_{\mu}e)$ . 23 parameters

2f終状態の断面積、角度分布を~0.1% 精度で測定し、heavy Z'やWIMP(暗黒物質) のループの効果を測定する



SMラグランジアンに保存則を満たすdimension 6 のBSM項を加え、Higgs, top, 電弱精密測定の 結果を代入して各項へのconstraintを調べる

> 多数の精密測定を総合して モデル非依存な新物理探索が可能

### New physics のエネルギースケール



2017年 ILC 250 GeVの意義を検証する委員会(「浅井委員会」) http://www.jahep.org/files/ILC250GeVReport0622Final.pdf



# エネルギーフロンティア レプトンコライダーの 技術と将来計画

ターゲット: • Higgs factory (~250 GeV) @ 2030-2040s (Multi-)TeV e+e- collider @ >2050

# レプトンコライダーの技術

### 1. e⁺e⁻リニアコライダー

- 超伝導方式 "
  - 電力効率がよい。臨界磁場でリミット。実績が多い。
- 常伝導方式 🦺



2. e<sup>+</sup>e<sup>-</sup>リングコライダー (E) CEPC

- 500 GeV以上は事実上不可能
- 低エネルギー(Z-pole)で有利
- 3. 将来技術(プラズマ加速、µコライダー)
  - 将来ブレークスルーになり得るが予測困難。

ヒッグスファクトリーの概要

	ILC250	CLIC380	FCCee	CEPC
方式	線形·超伝導	線形·常伝導	円形	円形
サイト	日本	CERN	CERN	中国
エネルギー	250 GeV	380 GeV	240 GeV	240 GeV
長さ	20 km	12 km	100 km	100 km
現状	TDR	CDR	CDR	CDR
完成時期	2030年台前半	?	?	2030年台前半?
目下の課題	国際分担 政府の決断	CERN将来計画 技術設計	トンネル費用	技術的完成度 中国政府の意思決定

Higgs factoryとしての物理性能は概ね同等 (線形は偏極可能、円形はルミノシティが多少高い) "As Higgs factories, all the four contenders have a similar reach, as established during the Open Symposium." (Physics Briefing book)

- ILC250はTDRが完成し、すぐ建設可能な唯一のプロジェクト
- コスト面、アップグレード可能性も考慮すべき

# ILC (250 GeV)

北上市

奥州市



国際協力で日本に 建設を目指す超伝導 e<sup>+</sup>e<sup>-</sup>線形加速器 候補地:北上山地

### 主な技術要素:

- 電子•陽電子源
- 前段加速
- ダンピングリング
- 主線形加速器
- 最終収束系
- <u>測定器</u> • <u>ビーム</u>ダンプ

# ILC: 超伝導加速空洞

ILC加速空洞の目標性能:単体35 MV/m,平均31.5 MV/m Q (蓄積効率のようなもの) > 1 x 10<sup>10</sup>

ILCとほぼ同じ構造の空洞が Euro-XFEL (800台, DESY, 2017-), LCLS-II (300台, SLAC, 2020秋-) ですでに製作されている。





空洞製造 内面研磨 回数	E-XFEL-A 実績 電界: [MV/m] 率: [%] (Q值達成含)	ILC 計画 電界: [MV/m] 率: [%] (Q值達成含)
1回目	33 MV/m 63%	35 MV/m 75%
2,3 回目	<mark>33 MV/m</mark> 82%, 91% ( 2, 3 回表面処理)	35 MV/m 90%
・E-XFEL実績: ILC 計画目標に対して、電界、Q値を総合 し、 <b>約90%の技術レベルを達成</b> 。		

ILC 9セル空洞

EU, FNAL, KEK それぞれでILCに 近い性能を達成

ILCのコスト評価は Euro-XFELの 実績による。 大幅なコスト、納期 超過のリスクが 少ない。

# ILC: 高加速勾配化への取り組み





75度/120度の2段階プロセスで 真空bakingを行った空洞で49 MV/m を達成 (空洞7台) KEKで再現実験中 別にN-dopingでHigh Q cavityも

日米政府主導の共同開発G による研究が進んでいる。 超伝導薄膜

Nb<sub>3</sub>Sn等のH<sub>c</sub>の高い超伝導材料を Nb上に薄膜形成することで、原理的に 高い加速勾配が得られる。

Material	Tc	$H_{c}(0)$	$H_{c1}(0)$	$H_{c2}(0)$	$\lambda$ (nm)
Nb	9.2 K	0.20 T	0.18 T	0.28 T	40
NbN	16.2 K	0.23 T	0.02 T	15 T	~350
Nb <sub>3</sub> Sn	18 K	0.54 T	0.05 T	28 T	~100
MgB <sub>2</sub>	40 K	0.43 T	0.03 T	3~60 T	140



50 MV/mで1-2 TeV e<sup>+</sup>e<sup>-</sup> colliderに手が届く

# <sub>陽電子源</sub> ILC: 陽電子源/最終収束系

Energy

spin rotation

solenoid

comp. RF



両方式ともターゲットが主要 課題。準備期間に実証。

	電子駆動	アンジュレータ
冷却方法/回転シール	水冷/磁性流体	放射·磁気浮上
半径(mm)	250	500
重量(kg)	65	50*
接線速度(m/s)	5	100
回転速度(rpm)	200	2,000
ビーム熱負荷(kW)	12	2
真空圧力(Pa)	<b>10</b> <sup>-6</sup>	<b>10</b> <sup>-6</sup>

基盤技術は確立されている いくつかの項目で国際分担 により今後数年で開発を行い 技術的懸念を払拭すると共に 図面レベルの最終設計を完成

従来方式(大電流Linac)も併せて検討中 (ただし非偏極) 最終収束系



KEK ATF2にて1.3 GeVのビームで 41 nmビームサイズを達成 (goal: 37nm)

# ILC: 測定器開発

#### 2つの汎用測定器構想





ILD (日欧中心)SiD (米中心)線形加速器の衝突点は1つ。"Push-pull"方式、もしくはどちらか一つを選ぶ?

"Particle flow" 5次元カロリメータにより Jet energy分解能を大幅に向上 深層学習による発展も期待できる 「ビッグデータ」測定器

日本はILD開発中心拠点の一つとして様々な 先進・微細技術を開発。新技術による改良も進む。





シリコンECALの組み立て

SOIピクセル検出器試作 Taikan Suehara, 高エネルギー将来計画委員会, 30 Apr. 2020 page 32

# ILC: 最近の状況

### 2019年

- ・ 3/8 政府見解「国際的な意見交換を継続」
- 国際分担等に関する検討 (KEK国際WG)
- 日米欧政府間・議員間の議論進展 (米国国務省からの支援表明)

2020年

- 日本学術会議マスタープラン(1月)
- 政府見解 (2月、SLAC), ICFA見解
- 欧州戦略 (5月→延期)
- ILC推進国際組織改編 (7月?)
   → KEKを中心に「移行組織」
- ICFAは、ILC研究所の設立および日本でのILCの建設に先立って準備段階が必要であることに注意する。
- ICFAは、準備段階への移行を促進するための国際推進チームの設立を推奨する。 ○ 国際推進チームはKEKがホストすべきであり、そのリーダーはICFAの支援のも と選出される。

○ チームは、技術、組織、およびガバナンスに関する課題を含む、ILC建設準備 段階の計画を策定する。また、準備段階で必要となる活動とリソースを明らかにす ることも任務である。計画策定プロセスには、関心を持つ研究所及びコミュニティ が関与すべきだろう。

○ ICFAは、これらの推進活動がおおよそ1年で完了すると見込んでいる。その時 点で、日本が準備段階へ進むとの意思表示を行い、国際パートナーも同意すれば、 準備段階を開始することが可能になるだろう。



### LCWS2019@仙台

Melinda Pavek, Director of Science, Innovation and Development, US Embassy, Tokyo

"the U.S. Department of State has done our initial due diligence, and we are ready to assist our partner agencies in moving forward with the next major particle physics facility in Japan —the International Linear Collider, also known as the ILC."

1年~1年半程度の移行期間 を経て、本格準備期間を開始 諸課題に取り組んでいる

ICFA声明より(KEK翻訳) Taikan Suehara, 高エネルギー将来計画委員会, 30 Apr. 2020 page 33

# **CLIC (Compact Linear Collider)**



#### CTF3@CERN (2003-2016)





#### 100 MV/mで現実的な 放電レートが得られる予想



技術的には、2026年 建設開始、2035年 運転開始可能との見解 3 TeVまでupgrade可能

### **FCCee/CEPC**





### 周長~100 km, 2 IP, エネルギー 91-350 GeV (CEPCは240 GeV)



LEPよりルミノシティが遙かに 高く、ビーム収束(O(10nm)) やビーム不安定性の対策等に 詳細な検討と技術が必要。 現在はほぼシミュレーションに よる検討のみ。



••••

Outer Rin

Inner Rin

Outer Rin

Inner Ring

RF

H Mode

CEPCトンネル: 6 x 5 m

FCCトンネル: φ5500

ヒッグスファクトリーの概要

	ILC250	CLIC380	FCCee	CEPC
方式	線形·超伝導	線形·常伝導	円形	円形
サイト	日本	CERN	CERN	中国
エネルギー	250 GeV	380 GeV	250 GeV	250 GeV
長さ	20 km	12 km	100 km	100 km
現状	TDR	CDR	CDR	CDR
完成時期	2030年台前半	?	?	2030年台前半?
課題	国際分担 政府の決断	CERN将来計画 技術設計	トンネル費用	技術的完成度 中国政府の意思決定

 Higgs factoryとしての物理性能は概ね同等 (線形は偏極可能、円形はルミノシティが多少高い)

- ILC250はTDRが完成し、すぐ建設可能な唯一のプロジェクト
- コスト面、アップグレード可能性も考慮すべき

※タイムスケールは目安 LCへの道筋				
2020	2021~2024	2025~2033 2034~		
	建設準備期間	建設期間運転期間		
政府間	交渉の進展	ILC理事会		
Ę		理事会とDG・ 執行部による意志決定		
準備G	■ ILC準備研究所	LC国際研究所		
(2020.7-)	(100人規模へ徐々に拡張)	(最終的に500~1000人規模)		
	・ KEK内に設置	・ ILC建設・運転の指揮		
LCB/LCC	→サイトへ移転?	・土木・施設の建設・管理		
を改組	• 土木•施設詳細設計	• 各国の現物貢献の監督•受入		
	• 加速器諸課題解決の指揮	・ 測定器国際実験グループ		
ICFA/LCB	(各国の開発機関と分担)	との調整 (設置・運転)		
とKEKの	• 政府間交渉の材料を提供	・ アップグレードの開発研究		
主導で	(詳細コストの見積もり等)	加油兜胆淼、油乳、油盐		
設置	・測定器の公募・決定	加速 る 開 先 望 転 は の 米 ア ジ ア 由 心 に 分 相		



ILCを中心とした、

- 電子・陽電子ビーム活用
- 加速器•測定器技術開発

• 物理 (理論•実験) 研究

- 将来計画のための開発・他実験への応用
- を含む総合的な研究所の建設を想定

# 250 GeV ILC → 次のステップへ



ルミノシティの比較



### LCは偏極が使え、実質的なルミノシティが2-3倍増加 FCC, CEPCは2IP合計

# ミューオンコライダー

- リングコライダー of O(10 TeV)
- ミューオン生成に二つの方式 (proton, positron)
- 限られたactivity (protonは5年前にstop, positronは継続中)
  - 二つの問題

 $\bullet$ 

- 崩壊電子のバックグラウンド
- 環境中へのニュートリノ 放出による放射線
- 実現には長期の集中的な 開発研究が必要
  最短で30年で完成





- Target: 2035-40年にMulti-TeV colliderのTDR
- ・3つの方式
  - Laser driven
  - Electron driven
  - Proton driven
- GeVまでの電子加速は実証されている
- 様々な課題
  - 安定した加速
  - エミッタンス保持
  - 大電流、高エネルギー



ILC なら目標の1%-レベルの精度が主要なヒッグス結合の全てについて達成可能



ヒッグスの様々な分岐比、結合定数、全幅のモデル非依存な決定への鍵



 $\sigma(HZ)$ のモデル非依存な絶対測定  $\rightarrow$  ヒッグス結合の絶対測定